

北陸及び近畿地方の b 値についてThe b -value calculated for Hokuriku and Kinki regions

○竹内文朗*澁谷拓郎*松村一男*岡本拓夫

○Fumiaki TAKEUCHI, Takuo SHIBUTANI, Kazuo MATSUMURA, Takuo OKAMOTO

We calculated b -values for 10 regions in the Hokuriku and the Kinki. The data are from the Hokuriku and the Abuyama observatory from Jan. 1976 to Sept. 1997, and from the JMA (Japan Meteorological Agency) Ichigenka. Calculation method is as before, but the region is changed. At some regions, the b -values show a big change around 2000 yr.

1. はじめに

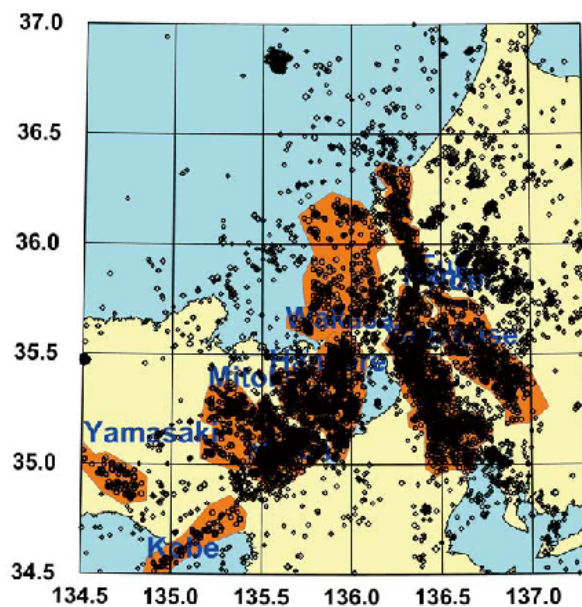


Fig.1 b 値検討の対象とした範囲。地震は $M \geq 1.0$ に付き検討したが、図には $M \geq 2.0$ のみを示した。黒い丸が地震で、大きさはマグニチュードに比例する。 b 値はだいたい色の 10 域に付いて調べた。

昨年度の本講演会で b 値を調べた範囲を、今回は拡大して調べた。範囲は $34.5^\circ - 37.0^\circ$ 、 $134.5^\circ - 137.3^\circ$ で、1976 年-2009 年のデータを利用した。今回は、1976 年 1 月 - 1997 年 9 月は京大の北陸観測所と阿武山観測所のデータ、それ以後は気象庁一元化データを利用した。 M は 1 以上を利用したが、均質性から 2 以上が妥当と考える。ただし最近では $M1.5$ まで使用可と考える。

観測地震数を時間的に追った例 Fig.2 に示す。

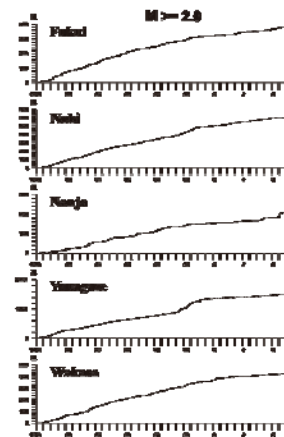


Fig.2 東部各域での $M \geq 2$ の地震数。

図から、ほとんどの地域で 1980 年代後半から地震発生数が減っている事が伺える。Yanagase では 1995 年の兵庫県南部地震に対応する地震数の増加が見られるが、他はほとんどそれが無く、地震数が減る傾向である。

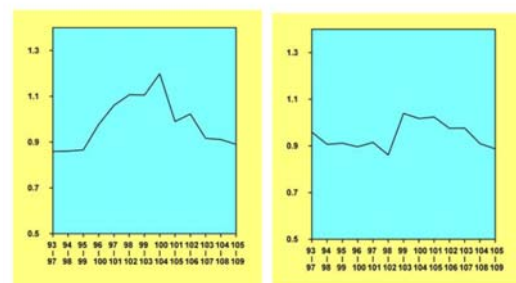


Fig.3 Nobi (左) と Yanagase (右) の b 値時間変化

このようにして、Fig.3 に示す様な b 地の時間変化を求めた。各地に付いてポスターで示す。